

「高付加価値」の本質を再考した 価値創造型の新製品を多数展示

化粧品・医薬部外品OEM・ODM国内最大手の日本コルマーは、国内7工場・5研究所体制でスキンケアからメイクアップ、ヘアケアまであらゆる化粧品を開発製造できる体制を整える。第10回化粧品開発展では、「ミレニアルピンク」をテーマカラーにデザインした展示ブースで、「日本コルマーが考える高付加価値」をキーワードに開発した新製品を展示する。今回は展示製品を増やし40品目以上を並べる。

5つのトレンドワードを抽出 コンセプトストーリーも充実化

同社は、国内に工場併設型の3つの研究所と独立型の2つの研究所の計5研究所・研究員160名体制で、化粧品の処方開発から原料素材の基礎研究、ヒト臨床試験による有効性評価まで一貫して行っており、年間で開発する新製品数(改良品を含む)は約1000SKUにのぼる。

独立型の横浜研究所(神奈川県)とスキンリサーチセンター(大阪)ではそれぞれ、独自のオリジナルの製剤開発と自社オリジナル原料の研究開発・有



別所氏

「新規技術」フォトジェニック「クリーンビューティー」「高機能メークアップ」の5つのテーマを設けて開発製品を展示する。

所信香氏は「近年はブランドのコンセプトやストーリーの重要性が高まっている。そのため、商品企画や販促などにそのまま使えるような状態で提供するODM案件が増えている」と話す。そうした傾向を踏まえて、展示ブースでも独自のコンセプトやストーリーを抽出はあらゆる化粧品に共通する

独自原料で高機能化を推進 自然由来成分の配合量表示も

スキンケアカテゴリーでは、独自開発したオリジナル原料を用いた新製品を中心に展示する。同社は公開しているだけで8種類の自社開発原料をラインナップしている。今回はその中から「雌阿寒金梅(メアカンキンバイ) 培養細胞エキス」「キクバヤマボクチエキス」「ノリウツギエキス」の3種の国産素材を用いた製品を並べる。「肌への有効性評価まで行える」と別所氏は語る。

また、成長市場であるナチュラル・オーガニック



「プレステージスキンケア」「新規技術」「フォトジェニック」「クリーンビューティー」「高機能メイクアップ」の5つのテーマで開発製品

社開発原料を用いた独自のコンセプトによるスキンケアシリーズを中心に用意しているという。さらに、業界トレンドの分析・抽出はあらゆる化粧品に共通する

「刺激性アスト済みで敏感肌にも安心して使える処方になっている。自然由来成分を高配合した化粧品で課題になりがちな機能性や使用感についても、提案する製品はクリアしている。是非手に取って試してもらいたい」(別所氏)

トレンドのバームは変わり種も ハイブリッドなコスメにも挑戦

洗浄系アイテムでは、特徴の異なる4種類のクレンジングバームを展示する。

バーム系コスメはクレンシングバームやマルチ(万能)バームの他に、ファンデーションやUV

化粧品の開発・生産を行っている同社の強みの一つであることから、ブース内では紹介しきれない製品とともに情報を提供していく予定だ。

「コスメは出会った瞬間のドキドキ体験が醍醐味。多彩なグラデーションデザインや、チークオフのピンクを取り入れた容器パッケージにも注目を集めたい」(別所氏)

「コスメは出会った瞬間のドキドキ体験が醍醐味。多彩なグラデーションデザインや、チークオフのピンクを取り入れた容器パッケージにも注目を集めたい」(別所氏)